

2024 平和行動 in 根室 への参加について

北方四島学習会

第1講座では「海から見た北方領土問題」として講師の山田吉彦氏より講演を受けた。講演のなかで印象的だったことは、ロシアが不法占拠する北方領土について、経済特区として進出する国内外企業を税制優遇する法案を成立させたものの、現状北方四島の経済を支えているのは、実は日本であり根室市だけでも68億円程度の取引額が発生していることや、ビザなし交流でロシアの人たちが日本の充実した医療サービスを受けに来ていたこと。北方四島は地理的にロシア太平洋艦隊にとって重要な海峡であることなど知る機会となった。領土問題について国と国との対話は時間が掛かるが、ビザなし交流が行われていた時のように人と人の繋がりが大切であり、経済特区の四島の海洋資源についても日本が密接に関わり既成事実を作ることが重要であるとの説明を受けた。



第2講座では、元島民の訴えとして終戦を迎え平和に暮らせると思った矢先、ロシア軍が進軍してきた様子や、本土送還が伝達されたものの辿りついた先は樺太の収容所であり、収容所での生活など当時の苦労について話を聞くことができた。また、戦後、「海の向こうに見える近くて遠い故郷が1日も早く返還されるよう運動を続けてきたが返還が叶わないこと。さらに、ウクライナとロシアの戦争の影響により墓参の道も閉ざされ、途方に暮れていることなど悔しい思いが語られたいっぽうで、故郷に戻ることが叶わなかった同胞たちの墓前に良い知らせを報告するまで返還要求運動の灯を消すことなく取り組みを進めていく」と力強く語られたが、元島民の平均年齢が88歳と高齢となり時間的猶予が無いことも参加者に訴えていたことが、とても印象的であった。

2024 平和ノサップ集会

2日目には納沙布岬で集会が開催された。まず初めに納沙布岬から目と鼻の先が国境であることに驚いた。僅か数キロ先が国境であり豊かな漁場であるものの、自由に漁ができないことに、実際に現地を訪れ驚くこととなった。



国後島



集会では、連合として北方四島の早期返還に向け関係団体と連携し、北方領土問題が解決するその日まで、粘り強く運動を継続していくと宣言があった。

私は産別では沖縄・広島などの平和問題について考える行動に参加することが多くあるが、北方領土の問題について触れる機会がこれまで無く、改めて平和・領土問

題について考える良い機会となりました。

2024年9月

小田原・足柄地域連合

加藤 雅範